



中郷ふれあい新聞

2024年3月16日

第32号

発行者

梅郷3.4.5丁目
連合自治会長
古屋孝男

令和5年度活動を振り返る

コロナ過における行事運営と重点活動



連合自治会長
古屋孝男

令和5年度を振り返りますと、コロナウィルス感染症の第5類への移行を受け、感染拡大防止対応ガイドラインを定め、開催条件を検討工夫することで、諸事業を実施することができました。これもひとえに、会員の皆様を始め、関係諸団体各位の特段のご理解とご支援のおかげと感謝申し上げます。

工夫をしての行事運営

令和5年度の第4支会・当連自治会の各事業については、4月の定期総会から始まり、ビーチボール、卓球、ソフトボール、ファミリールゴルフの各大会、梅郷地区総合文化祭、新たなポツ

チャ体験会を実施しました。また、梅郷地区市民運動会は、各地区連合チーム編成とし得点方式を採用しての大会としました。参加の皆様より今年も実施出来て良かったとお言葉を頂くとともに、当チームは準優勝の成績を獲得しました。一方、独自事業としての資源回収、益踊り大会、防災訓練ならびに、ふれあい祭り等も予定通りの実施が出来ました。

特に報告する3事業

① 各自治会館の環境整備

青梅市が国の「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を基に創設した「集会所施設省エネルギー機器更新補助制度」を活用した自治会館の利用環境改善です。この制度は、各自治会館の空調設備および照明のLED化工事費用の8割が補助されるものです。この事業の実施に当たっては、自治会の工事費負

② 防災用備品の拡充

防災対応を進めている自治会等向けに東京都が創設した「関東大震災100周年、町会・自治会防災強化助成金」を活用した事業です。当自治会では、避難場所となる自治会館での避難時快適性向上用品や、災害発生時に活用できる工具等の災害対策用品を従前の防災用具に追加し、災害発生時への対応強化を図りました。(詳細は中面)

③ 吉野街道梅郷四丁目交差点の神代橋通りへの右折信号の設置

平成26年から継続要望し、関係機関のご尽力も頂いた結果、昨年11月から稼働開始しました。地域の皆様からも「右折時の安全が向上した」との声もいただきました。(詳細は4ページ)

皆様へのお願い

私達自治会を取り巻く環境は会員数の減少や高齢化、コロナ禍等の厳しい状況ですが、諸事業を実施するなかで皆様とのコミュニケーションの必要性を改めて強く感じました。

当連自治会では、災害時の被災拡大防止や助け合いのため「自主防災組織」の編成、定期的な訓練の実施や避難場所としての自治会館の整備・準備等を行ってまいります。皆様におかれましても「自助・共助・公助」の自助の意識高揚と共助へのご理解に加え、「ご近助」での災害時対応に備えて頂きたいと思っております。自治会はその一役を担うことも使命ですが、その実現には会員をはじめとする地域の皆様方の力が不可欠です。改めて会員の皆様には非会員の方々に自治会への加入促進の声掛けの協力を是非お願いいたします。

本年の元日に発生した石川県能登半島地震の様に、何時発生するか分からない災害に備え「災害へ、備えよ、常に」を心に刻み自治会としても「安全・安心なまちづくりへの取り組み」を基本に継続して事業に取り組みでまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

防災活動（災害対策用備品の整備）

梅郷3・4・5丁目連合自治会では地域の防災力強化に向けた様々な取り組みを進めています。今回はその取り組みの一つである「災害発生に備えた災害対策用備品の整備」について紹介します

災害発生に際し、自治会館が避難場所としての利用が出来る様になっていることは折に触れ「ふれあい新聞」やその他のお知らせで紹介してきています。

（4丁目会館は立地条件により避難場所から除きますが、備品類の整備は行っています）

しかしながら、もし避難が必要な状況になった時はその避難が短時間であったとしても、住居構造ではない場所に、多くの人にとどまることは身体的/精神的な負担は大きいものです。

また、地震による倒木等の発生で避難のための自家用車での移動や、緊急自動車の到着に支障が出るかもしれません。

当自治会は、これらの状況を総合的に想定し検討するなかで、ここに紹介する災害対策用備品を整備しています。

これらの備品整備は行政の補助制度を有効活用することで、自治会費での費用負担が最小で済むようにも考慮しています。

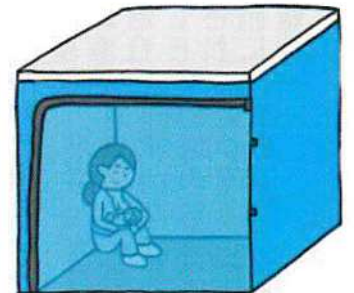
備品名：ベンリー間仕切り

用途：避難場所での着替えや授乳等での目かくし等

配備：3, 4丁目自治会館各1セット

5丁目自治会館に2セット

備考：コンパクトに折りたたみ、運搬容易。
状況によっては屋外使用も可能です。



当自治会では、ここで紹介した防災用備品の他にも、
<各自治会館に>

ハンディキャンパー(折り畳みリヤカー)/無線機/フロアーマット
一般用品類(乾電池・ラジオ・毛布・スマホ充電器等)/衛生物品(マスク・
消毒液・体温計等)/事務用品(筆記用具・バインダー・セロテープ等)

<5丁目自治会防災倉庫に>

発電機/ハロゲン投光器/浄水器/災害用テント/D級可搬型ポンプ/ガソリン
携行缶を配備し、災害発生に備えています。防災訓練等に積極的に参加
する等自助力を高めることはもちろんですが、“ご近助”並びに自治会の
防災対策活動への関心も高めていきましょう。

当自治会が取り組む地域の防災力

備品名：エンジンチェーンソー

用途：倒木による道路支障解消等

配備：3,4,5丁目自治会館に各1台

備考：フェイスガード等、使用に際しての安全防具を併せて準備済み。
今後、使用方法の講習などを行っていく予定です。

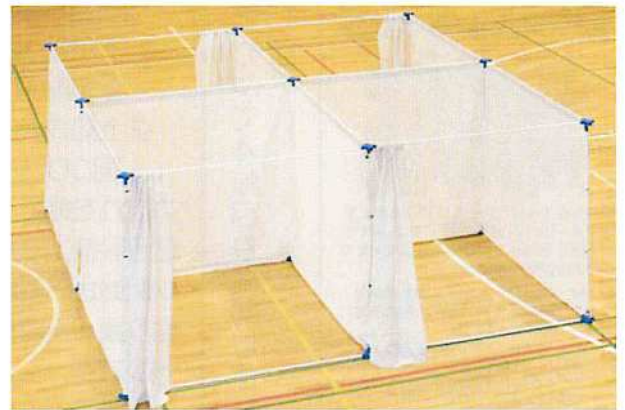


備品名：避難場所用間仕切り

用途：避難場所でのプライバシー性向上

配備：3,4丁目自治会館に各2セット
5丁目自治会館に6セット

備考：一区切り当たりの幅/奥行ともに約2m
高さ1.8mの間仕切りとなります。
間仕切りはカーテン式になっていて
どの面も必要に応じて開閉可能です。



備品名：災害救助用工具セット（背負式）

用途：地震等で変形したドアや窓の開放等

配備：3,4,5丁目自治会館に各1セット

注意：この工具を救助作業に使用する際は必ず
複数の人により行なうことが必要です。
二次被害発生に細心の注意を払い
周囲の住民、自主防災組織との
協力の下で行うことが必要です。



《参考》災害対策基本法（住民等の責務）

第七条 地方公共団体の区域内の公共的団体、防災上重要な施設の管理者その他法令の規定による防災に関する責務を有する者は、基本理念にのっとり、法令又は地域防災計画の定めるところにより、誠実にその責務を果たさなければならない。

2 災害応急対策又は災害復旧に必要な物資若しくは資材又は役務の供給又は提供を業とする者は、基本理念にのっとり、災害時においてもこれらの事業活動を継続的に実施するとともに、当該事業活動に関し、国又は地方公共団体が実施する防災に関する施策に協力するように努めなければならない。

3 前二項に規定するもののほか、地方公共団体の住民は、基本理念にのっとり、食品、飲料水その他の生活必需物資の備蓄その他の自ら災害に備えるための手段を講ずるとともに、防災訓練その他の自発的な防災活動への参加、過去の災害から得られた教訓の伝承その他の取組により防災に寄与するように努めなければならない。

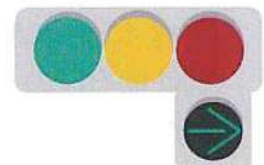
⇒住民の責務として「自らの災害への備え」「自発的な防災活動への参画」が示されている

トピックス 梅郷四丁目交差点の信号機改善成る！

吉野街道梅郷四丁目交差点にて御岳方向から直進の車が赤信号でも突っ込んで来ることが多く、下り車線から神代橋通りへの右折が危険かつ信号1サイクルで1台程度しか出来ず不便だった実情を皆様ご存じかと思いますが、令和5年11月より右折信号が追加され、右折が安全かつスムーズに出来る様になりました。これは長年にわたる自治会からの行政への要望が実現したものです。本件については、

- ①平成26年12月 青梅市長へ要望書を提出（連合会長 伊藤武夫）
青梅市長より、青梅警察署交通規制係へ相談したところ、交通量等を調査し検討する。との回答を得たとの回答あり。
- ②令和3年8月 青梅警察署長へ要望書を提出（連合会長 村木太一）
神代橋通りへの右折車両のための青矢印信号の設置を要望していたが設置の動きが無い。右折車両の安全確保のために当該信号機に時差式信号機の導入要請実施。
- ③上記②要望提出後動きが無いので、令和4年10月 東京都議会議員に口頭にて当該信号機の改善要望実施（連合会長 古屋孝男）

の流れを経て、令和5年11月中旬に右折信号設置工事が完了し、同27日より運用が開始されるに至りました。
粘り強く要望を出し続けた地域活動成果の一つです。



梅郷ふれあい祭り

2023開催される

平成24年より隔年で実施されてきた梅郷（ふるさと）ふれあい祭り。コロナ禍の影響で令和元年の開催以後実施されていませんでしたが、令和5年は「大人も子供もいっしょにふるさとを学べる・遊べる地域交流イベント」と銘打って4年ぶりに開催されました。

梅郷ふれあい祭り 2023

子供も大人も皆でいっしょにふるさとを学べる・遊べる 地域交流イベントです。ふるさとを知って、手作りおもちゃでのチーム対抗ゲームで遊ぼう！

日 時： 令和5年11月23日(木) 勤労感謝の日
午前9時00分から(午後2時終了予定)

会 場： 梅郷5丁目自治会館
とん汁、軽食の提供あります。

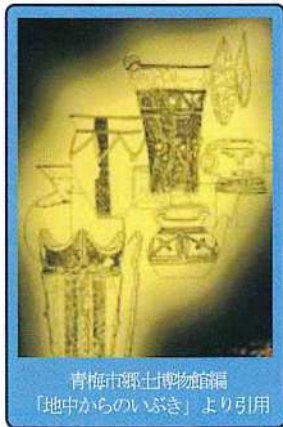
主 催： 梅郷3・4・5丁目連合自治会
協 力： 青梅市消防団第4分団第4隊・青梅市交通安全協会中郷支部
青梅市消防団第5分団・中郷地区保健センター/中郷町学童
青梅市立第五小学校PTA中郷支部

と銘打って4年ぶりに開催されました。

当日は「学ぶ」、「遊ぶ」の2部構成とし、学ぶセッションでは毛呂山町歴史民俗資料館の元館長で、梅郷2丁目在住の村木功氏を講師に迎えて「中郷を中心に梅郷の歴史をのぞいてみよう」と題しての講演会と、「isoyakiと文化財に触れる」山車の見学会の2テーマに分かれて学びを楽しみました。

isoyakiの歴史を学ぶ

講演会では、中郷地域で出土した土器や遺構から読み取れる中郷の縄文時代からの人びとの暮らし等を、山車の見学会では山車製作過程や山車に込められた地域の人々の思いを見て知ることが出来ました。



青梅市郷土博物館
「地中からのいびき」より引用

大人と子どもが一緒に遊ぶ

第2部では、参加者全員が同じ材料、同じ折り方で作った紙ヒコキで飛距離を競う「紙ヒコキF1」、昔懐かしいわりばし鉄砲作りと、作ったわりばし鉄砲での「射的大会」を大人子ども

混成の7チームで楽しむクラフト競技会を行いました。



楽しく遊んだ後は、チームで車座になって軽食を取りながらの懇親会を行うなかで、競技会の成績発表、参加者インタビュ―なども行い、短い時間でしたが楽しい交流が出来たことと思います。

編集後記

能登半島地震では道路の寸断等で公助が困難となるなか、共助、自助、ご近助での助け合いが大きな力となりました。

日頃の生活でちょっとした困り事を向こう三軒両隣、顔見知りのご近所さんで助け合っていると、災害時においてもいち早く助け合いができ防災に役立てられます。小さなコミュニケーションの

一歩として、ご近所の方と挨拶を交わし、顔馴染みになりませんか。

トントントントンカラリンと隣組地震やかみなり火事どろぼう互いに役立つ用心棒助けられたり助けたり♪

昭和前期の日本の流行歌「隣組」を再び思いだします。